

(案)

2019年12月10日
国立情報学研究所
学術コンテンツ課

2019年度第2回学術情報流通推進委員会に向けた準備について

第2回学術情報流通推進委員会、更には2020年度の活動に向けて、1.学術情報流通の推進に向けた各ステークホルダーのポジションペーパーの作成と、2.海外動向を踏まえた情報発信について、委員長及び委員会の了承の下に進める。

1. 学術情報流通の推進に向けた、各ステークホルダーのポジションペーパーの作成について

- 第2回学術情報流通推進委員会の開催までに、各ステークホルダーに対してお願いすること
 - ①各ステークホルダーの目指すこと、②目指すことに取り組む上での課題、③他のステークホルダーに望むこと、個別でやっているだけではうまくいかないこと、どのステークホルダーも未着手なこと等を、現に活動している立ち位置から列挙していただく(箇条書きで良い。テンプレートを事務局で用意する)。

○ 作業スケジュール

2019年度中に、どのような成果物をどのような体制で目指すかを確定する

- 2019年8月(第1回):各ステークホルダーの活動を情報共有
- 2019年12月初旬(メール審議):次回までに用意する準備物を確認
- 2020年2月頃(第2回):各ステークホルダーの準備物と世界的な動向を俯瞰したマップを用意して、今後のまとめ方について意見交換

2020年度は、これまでの情報共有及び意見交換を基に、成果物を作成する

- 2019年度の審議に基づき、コアメンバーと事務局で、提言(案)を用意する
- 2020年8月頃(第1回):提言(案)について意見交換
- 2020年9月～(メール審議):提言の完成に向けた意見交換
- 2021年2月頃(第2回):提言の完成

→web上で公開する他、2021年度にSPARC Japanセミナーの開催する等

(参考:2019年度第1回学術情報流通推進委員会のご発言要旨)

- 本委員会が想定する提言は、各ステークホルダーが抱えている課題を、将来的に解決するためのものと位置付ける。誰宛(向け)といった想定はひとまず置いておき、自分たちの実務に基づくボトムアップ的な提言とする。
- 各ステークホルダーの目指すこと(活動の方向性)、他のステークホルダーに望むこと、どのステークホルダーも未着手なこと、個別でやっているだけではうまくいかないこと等を、現に活動している立ち位置から列挙する(箇条書きで良い)。
- そうした作業を経てポートフォリオを組んだ上で、重なる部分をすり合わせたり、抜けているところを確認したりする。その前提として、出版社等も含めた学術情報流通に係る世界的な動向を把握しておき(マップを作成する)、それに照らし合わせて日本の置かれている状況を整理する。

(案)

2. 海外動向を踏まえた情報発信について

○ 扱うトピック及び進め方

- 引き続き Plan S を題材として扱う。2019 年 3 月末以降に公表された Plan S に関するドキュメント(例えば, Revised Implementation Guidance on Plan S Following Public Feedback Exercise)を和訳した上で公開する。Plan S に関連する基本的な web サイトへのリンクをまとめた, ポータルページを作成する。
- 用意した情報は引き続き, SPARC Japan の web サイト「学術情報流通に関する国内外の動向」を通して公開する。
- ドキュメントの和訳, ポータルページともに, 素案は事務局で用意し, 委員会にチェックしていただいた上で公開する。

○ 今後のスケジュール

- 2019 年 12 月(メール審議): 検討案(扱うトピック公開方法等)を委員会において確認
- 2019 年 12 月: メール審議の内容を参考に, 作業に着手
- 2020 年 2 月頃(第 2 回学術情報流通推進委員会): 今年度の活動に関するレビューと今後の活動体制を検討

(参考: 2019 年度第 1 回学術情報流通推進委員会のご発言要旨)

- 最新動向に関してはニュースへの URL がまとまっているだけでも助かる。また, 無理に最新動向を追いかけてなくても, 基礎的なところを固めただけのサイトでもむしろいいのではないかと。
- 公開方法について, 委員よりいただいた参考 web サイト
(林委員)
 - Wired Japan (<https://wired.jp/>)
(編集者を置いてメッセージ性を出す)
 - ギズモード (<https://www.gizmodo.jp/>)
(ニュース性を重視して細かく頻度高く出す)
 - Scholarly Kitchen (<https://scholarlykitchen.sspnet.org/>)
(多様な(個人としての)執筆陣視点からの言説を掲載)

(倉田委員)

- Wikipedia (<https://ja.wikipedia.org/>)
(気づいた委員がこんな情報もあったということが蓄積していく)